

第3回 笠間市「道の駅」整備推進協議会議事要旨

【日時】2018年3月23日 15:00～

【場所】笠間市役所 教育棟2階 2-1・2-2 会議室

【出席者】

(1)笠間市「道の駅」整備推進協議会 委員	
立教大学 観光学部 教授・観光学科長	
観光研究所所長	東徹
株式会社パーティー・フー代表取締役	
(国土交通省道路中期計画有識者メンバー)	石井みな子
食空間コーディネーター	
(文教大学 非常勤講師)	田淵弘子
武蔵野美術大学 基礎デザイン学科 非常勤講師	白濱力
オフィスフレール代表 フードアドバイザー	
(笠間市ブランディングアドバイザー)	藤原浩 (欠席)
茨城交通株式会社 執行役員運輸部長	飛田潔
常陽銀行友部支店長	水上浩 (欠席)
常陸農業協同組合 代表理事副組合長	南指原賢治 (欠席)
常陸農業協同組合 笠間地区直売所生産部会部会長	柴田良一
一般社団法人 笠間観光協会会長	本間敬
笠間市区長会会長	大津廣司
笠間アグリビジネスネットワーク協議会 会長	永田良夫
笠間市市議会議員	小松崎均
笠間市市議会議員	橋本良一
笠間市副市長	久須美忍 (欠席)
笠間市市長公室長	塩畑正志
笠間市総務部長	中村公彦
笠間市産業経済部長	米川健一
笠間市都市建設部長	大森満
笠間市農業公社事務局長	内桶克之 (欠席)

(以上敬称略)

(2) 専門家（アドバイザー）

国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所計画課	課長	岩崎史明
国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所計画課	建設専門官	會澤浩志
茨城県企画部地域計画課	副参事	久保田博文
茨城県企画部地域計画課	主事	渡邊修一郎
茨城県商工労働観光部観光物産課	主事	猿田陽子
茨城県農林水産部販売流通課	係長	八巻和香
茨城県農林水産部農村環境課	係長	大津豊（欠席）
茨城県土木部道路維持課	主査	伊藤豪人
茨城県土木部道路維持課	主事	細金満寿

（以上敬称略）

(3) 笠間市「道の駅」整備推進協議会 事務局

笠間市産業経済部農政課	課長	金木雄治（欠席）
笠間市産業経済部農政課	課長補佐	細谷敦
笠間市産業経済部農政課農政企画室	室長	田中博
笠間市産業経済部農政課農政企画室	主査	大嶋信二
三井共同建設コンサルタント株式会社		高橋恵一
三井共同建設コンサルタント株式会社		芳賀章
三井共同建設コンサルタント株式会社		岡部義諒
三井共同建設コンサルタント株式会社		森田舞
株式会社計画・環境建築		杉本洋文
株式会社計画・環境建築		桜井寛

【議事】

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 専門家（アドバイザー）紹介
4. 議事

(1) 「1. はじめに」「2. 道の駅概要」について

[事務局より「1. はじめに」「2. 道の駅概要」について説明。]

(東会長)

- ・ 「1. はじめに」及び「2. 道の駅概要」について質問・意見はあるか。

[特に意見無し]

(東会長)

- ・ 「2. 道の駅概要」で休憩機能は道の駅の必要機能であり、近年重要機能として注目されているのが情報発信機能と地域連携機能である。東日本大震災以降は防災拠点として注目されている。この3機能は最低限の条件であり、さらに笠間の道の駅に必要な機能はご議論頂きたい。

(2) 「3. 道の駅整備の目的」について

[事務局より「3. 道の駅整備の目的」について説明。]

(東会長)

- ・ 合併した笠間市が「笠間らしさ」の情報を発信する側として「どう見られたいのか・どう思われたいのか」が重要であり、これを「笠間のアイデンティティ」と表現している。
- ・ 笠間市における今後の5年間の観光基本計画でも道の駅の位置づけは重要となっている。
- ・ 「2. 道の駅概要」について質問・意見はあるか。

(本間委員)

- ・ 「笠間らしさ」を挙げると栗や御影石などたくさんある。一つに絞るのは非常に難しいため議論が必要である。
- ・ 栗に関しては何が日本一か不明であるためデータの提示が必要である。

(東会長)

- ・ 合併市町村ならではのシンボルを何にするのか。それを詰めると道の駅のネーミングにも繋がる。
- ・ 農産物のブランド化を図るための機能、観光交流拠点としての機能、つまり農と観光が大きな柱となって道の駅整備を進めていくべきである。

(白濱委員)

- ・ 笠間のまちづくりに関わって5年になるが、当初は笠間市の存在や名前自体も知らなかった。今後の課題解決の手段としてブランド化が挙げられていると感じている。
- ・ 笠間市のブランドとして栗が重要なファクターとなっている。
- ・ 笠間市自身と道の駅のブランド品が一緒が良いのか併せて議論が必要である。笠間市として何のブランド化を推進していくか決定しているものはあるか。

(米川委員)

- ・ 笠間市として何を出していこうという議論は現状笠間市では行っていない。
- ・ オール笠間市として栗を前面に出していきたいと考えている。
- ・ 何が日本一なのか検証しているところである。

(白濱委員)

- ・ ブランディングに関してはこの協議会で話し合うべきではなく、別に会議を開催すべきである。

(東会長)

- ・ 道の駅のシンボルとして何を掲げるのか。観光の委員会では栗と笠間焼の意識が相当強かった。
- ・ 例えば「焼き物の里」と名前を付けてもいいが、笠間焼は茨城県では有名だが県境を越えると益子焼があるので名前に抵抗がある人がいるかもしれない。
- ・ 栗に関しては日本一でありながらブランド化されていないのが問題である。そのために観光などと組み合わせながら栗のブランド化にどう道の駅が寄与することが重要である。

(石井副会長)

- ・ 先日、笠間市を観光させて頂いたが、栗の物産がほとんど見られなかった。道の駅を拠点として栗をPRできれば良い。
- ・ 道の駅で栗を情報発信の媒体とし、笠間市自身も発信出来ると良い。

(東会長)

- ・ 観光の委員会ではシンボルと成り得る栗をいかに楽しんでもらうかという時に、栗メニューを笠間焼で食べたいという意見が出ている。笠間焼は有名であるが食と結びつけることが現状できていない。それを体現出来るのは道の駅という意見がある。
- ・ 栗や笠間焼など、どちらをとるかではなく、いかに融合させて笠間の豊かさを表現するかが重要である。

(3) 「4. 道の駅整備コンセプトの設定」について

[事務局より「4. 道の駅整備コンセプトの設定」について説明。]

(東会長)

- ・ 「4. 道の駅整備コンセプトの設定」について質問・意見はあるか。

(塩畑委員)

- ・ 「笠間らしいもてなしを発展」という言葉に違和感がある。

(東会長)

- ・ コンセプトにおいて住む視点が無い、「笠間らしい暮らしを発展」の方が良い。
- ・ 笠間に住んでいるからこそ得られる豊かな暮らしを体感出来る場が道の駅と考えた方がコンセプトとしてスムーズであると考える。
- ・ 道の駅があることで笠間市民が自分たちの暮らしぶりを再認識して、いろいろなものを発見しながら自分たちの暮らしを発展させると表現した方が良い。
- ・ 近年、道の駅は地域外から来た方々向けの施設にはできているが実際は地域の人

が相当利用している。むしろ地域コミュニティの核になっているような道の駅も多くある。そのようなことを考えると、これから我々が考えていく道の駅は暮らしの視点を入れるべきだと考える。

(石井副会長)

- ・ 観光客視点で見ると、その観光地で出会った方が素敵だから再来訪するというのが一つの観光の要素であり、そこに住んでいらっしゃる方々の暮らし方自体が資源だと考える。
- ・ 近年、各地の道の駅にあまり差が感じられない状態である。そのような中で住民の暮らし方を表現する機能や人の交流の場所としての役割が重要と考える。
- ・ 地元住民の利用が多いとビジネス的にも安定する。

(東会長)

- ・ 地元の人をどう利用者として見ていくか、地元の人にとっても利用価値があるというのは重要な視点である。
- ・ 例えば野菜が安く買えるということなのか、産地にいるから鮮度の高いものが買えるということなのか考えて頂きたい。外から来る人が産地にわざわざ足を運ぶということはクオリティを期待している。
- ・ 暮らしの視点と観光客の視点の両方の視点どう捉えるかが重要であり、議論が必要である。

(柴田委員)

- ・ 生産者の立場から考えると農産物は毎日出来るため、農産物の鮮度を重視すると、平日は地元の人、土日は観光客が良いと考える。

(東会長)

- ・ 地元の方を味方につけないと平日は閑散としてしまう恐れがある。基本的には平日は地元の方が大いに利用して頂く必要がある。
- ・ 鮮度という点から見ても、ビジネスという点から見ても地元の人々の顧客層と外から来る人の顧客層を上手く捉えたような展開が必要である。

(本間委員)

- ・ 地元の人々が来なくなるということは地域資源の衰退に繋がる。そのため地元の人々をしっかりと見ていくことが求められる。

(東会長)

- ・ 道の駅を整備するのであれば、地元にとっての利用価値が高いものが求められる。直売所のみではなく、日常的な楽しさを感じられる複数の機能を持たせるべきである。

(小松崎委員)

- ・ 「笠間らしいもてなし」という言葉は何を指すか考えてもピンとこない。
- ・ 小布施では「もてなし」という考えではなく、地域の人々が観光客が来てくれた

ら嬉しいという感情を持ち、その思いが観光資源を発展させている。

- ・ 「もてなし」の原点である「暮らし」を発展させるべきである。今住んでいる人々が豊かになるような道の駅となれば良い。

(東会長)

- ・ 小布施では自分たちの暮らしを良くするために観光資源を発展させた経緯がある。

(石井副会長)

- ・ 先日、笠間焼を見させて頂いた。笠間焼の自由なルールから文化の大らかさを感じ、それが魅力に感じる。

(大津委員)

- ・ 現在、笠間焼をやっている人は若い人が多い。
- ・ 笠間焼の条件としては地元の土を60%以上使用していることであるため、比較的自由に楽しみのある焼き物となっている。

(東会長)

- ・ 以前の協議会内での意見でもあったと思うが、笠間焼に関しては道の駅内で販売を行うよりはショールームとして情報発信し、買うのはそれぞれの市内販売店で行うのが好ましい。

(大津委員)

- ・ 先日、周囲の方々に話を聞いたが、道の駅は情報発信として笠間焼を展示する場所であってほしいという意見と販売店を紹介する機能がほしいという意見が多かった。

(橋本委員)

- ・ 観光客に道の駅に寄って笠間の情報を得て笠間市内の各地に流れてほしい。
- ・ 生産者には良いものを生産してもらい、売れ残りが少ない直売所を目指し、さらに6次産業化などの好循環を生み出してほしい。

(飛田委員)

- ・ 茨城交通は現在計画地から秋葉原までバスを運行しているが、道の駅は情報発信の基地として非常に期待している。道の駅で笠間の観光情報を楽しく発信してもらいたい。
- ・ バスを待つ楽しさを感じられる拠点として期待している。
- ・ 道の駅が出来ることにより、バスで東京から笠間市に来た方が歩いて笠間市を周遊することを期待している。

(田淵委員)

- ・ 先日、飲食店に立ち寄ったが笠間焼ではなく市販の器を使っていた。栗を購入する際、質問したのだが対応が残念だった。来訪する立場からすれば笠間に来たからにはおいしい栗を食べたいし、笠間焼で食事したいと思う。

(石井副会長)

- ・ 栗の食べ方など一番詳しいのは生産者であると考えて。女性の観光客は栗などの生産物の調理法などすごく興味がある。
- ・ 歩く範囲に観光資源があるというのはすごく良く、散歩感覚でカジュアルに楽しめたら良い。

(東会長)

- ・ 道の駅をスタートラインとして地域に出てほしいという狙いを持って、笠間市の観光が道の駅のみで完結してはいけないと考える。道の駅は恩恵を地域全体に付与していく施設であるべきである。
- ・ 道の駅の施設も地域住民が多様な関わり合いが出来るように柔軟な使い方をしてほしい。
- ・ 情報発信自体もサービスとして、人から発信した方が好ましいと考える。

(飛田委員)

- ・ 大洗はガルパンをきっかけに観光客が増えたが、その人々に大洗の魅力を聞いてみると、人の良さという意見が多い。笠間もそのような魅力を出せたら良い。

(東会長)

- ・ 笠間市の観光計画でも「市民が主役」と謳った。
- ・ ある程度の寛容さを持った市民が行う情報発信でも良いと考える。

(永田委員)

- ・ 農産物をただ並べただけではおいしいとはわからない。実際に食べてもらうために、実際に農産物直売所で販売している農産物を使用したレストランがあると良い。

(東会長)

- ・ 今までと違う食と農の融合があると良い。まさに地元の豊かさの表現に成り得る。
- ・ 道の駅はそこを始点として笠間の街を巡ってもらうための観光拠点である。つまりこの施設自体が自己完結的な観光施設ではないということは注意をしていきたい。
- ・ 地域の賑わいというのは、ご意見があったように農産物だけ、飲食だけではなくそれらが融合し合うことで豊かさ賑わいを生み出すことが出来ることを合意して頂きたい。

(4) 「5. 道の駅導入機能・施設の検討」について

[事務局より「5. 道の駅導入機能・施設の検討」について説明。]

(東会長)

- ・ 以前の協議会で出た意見で薬局という意見があった。
- ・ 「5. 道の駅導入機能・施設の検討」について質問・意見はあるか。

(飛田委員)

- ・ 近年、トイレは明るく清潔なのは当たり前である。より機能的なデザインが求められていると考える。
- ・ バス停待合所の利便性を考慮して頂きたい。

(東会長)

- ・ バス停に関してはパークアンドライドの機能を道の駅に持たせるとなると重要である。

(石井副会長)

- ・ トイレは女性にとってとても重要である。買い物をしたときなどは広い荷物置きがあったら非常に親切だと考える。化粧するスペースも重要である。利便性と同時に笠間らしい魅力が少しあると良い。

(東会長)

- ・ ユニバーサルデザインとして誰でも使いやすさを重視するべき。
- ・ 観光の委員会で「もてなし」というのは何かしてあげるということではなく、人に優しいということであるという意見があった。

(橋本委員)

- ・ 貸出用の車椅子があったらよい。

(柴田委員)

- ・ イベント時などに利用出来る加工施設があれば良い。

(東会長)

- ・ 基本方針の2番目を「暮らし」と変更したので、それに伴う導入機能も変更して頂く。「笠間らしい暮らし」とは産地ならではの暮らしの豊かさであり、それは農産物の鮮度や、生産者と直接接することが出来ることである。「ここは農産物が豊かだから我々はこんな豊かな暮らしができています」ということ、「農業と暮らしが身近にいるからこそ、味わえる豊かさ」ということが表現できれば良い。

(本間委員)

- ・ 菊祭り開催の時に車椅子を用意したが利用率は低かった。そのため準備数は少なくても良い。

(東会長)

- ・ 「一年を通して」という表現は注意が必要である。季節感を失う恐れがある。
- ・ 販売機能において、規制をかけすぎないで、それぞれの生産者の売り方の創意工夫を反映させられるようにして頂きたい。

(本間委員)

- ・ 週末に道の駅が笠間市内に関わらずツアーを企画するような機能があっても良いと考える。

(東会長)

- ・ ここで車を止めてバスでツアーするのがあっても良い。旅行業の登録が必要であるので注意が必要である。観光協会が登録しているのか。

(本間委員)

- ・ 観光協会が登録している。

(橋本委員)

- ・ 直売所と直売所が競合する恐れが無いのか。

(米川委員)

- ・ おにぎりを例に挙げても直売所とコンビニは違う。むしろ競争力を持った商品開発が期待出来る。

(東会長)

- ・ 営業を制限するのは難しい。顧客の選択に依存する。うまく競争しつつ、共存して頂きたい。

(5) 「6. 道の駅立地計画の検討」「7. 道の駅の整備・管理運営手法の検討」について
[事務局より] 「6. 道の駅立地計画の検討」「7. 道の駅の整備・管理運営手法の検討」
について説明。]

(東会長)

- ・ 管理運営手法に関しては今後検討していくものである。
- ・ 「6. 道の駅立地計画の検討」「7. 道の駅の整備・管理運営手法の検討」について質問・意見はあるか。

[特に意見無し]

5. その他

(事務局)

- ・ 次回「道の駅」整備推進協議会は5月を予定し、議事は基本計画である。

6. 閉会

以上